さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者：三和地区社会福祉協議会
会長　泉水　房治
編　　集：三和地区社協　広報部
事　務　局：三和保健福祉センター内
（サンハート内）
電　　話：0436－37－7100

岐路に立つ「通いの場」4月以降の継続に期待

2月2日 座談会にて

座談会出席者
◇市西地区小野山町会
織山　武氏
◇養老地区新巻町会
佐久間　勝氏
◇海上地区宮原町会
星野　康典氏
◇司会・進行
渡邉　恵子

月1回開催で、それぞれ町会として取組んできた『通いの場』ですが、新年度（4月）以降、補助金支給要件が月次開催から週次開催へ、負担元が市原市から介護保険側へと移行されます。

そこで、運営主体である町会の代表者の皆さん地区1名にサンハートへ来場頂き、この1年を振り返った感想と、新年度へ向けた取組み方針を伺いました。

なお、光風台地区においては、4月以降、週次開催へ移行する方針とのことであり、本座談会の趣旨に鑑み参加を見合わせて頂きました。



地区社協　広報部
渡邉　編集委員

健康促進趣旨・広く周知の必要性

渡邉　この一年、『通いの場』に取り組んで頂いた皆さんの感想をまずお聞かせ頂けますか。

織山　当初、1Grでスタートしたものの、自治会館の収容人員の関係で、2Gr2班編成で実施日をずらしてそれぞれ月1回取り組んでいます。

この取り組みには高齢者福祉の一環として健康寿命を延ばす目的がある一方、こうした趣旨が必ずしも浸透しきれていない点も否めないと思います。地区あるいは地域として取組趣旨をPRしていくことも課題だと思います。



市西地区　小野山町会
織山町会長

佐久間　前任町会長から既定路線としてこの取り組みを継承しましたが、当初は、プログラムの組み立てをどうするか悩みました。

健康体操以降は、包括センターの協力を頂いたり、市の出前講座等のセミナーを取り入れたりしたものの、参加者が楽しく過ごせる時間の創出に苦心しました。

でも、今では参加者が進んで運営に参加してくれるようになり、プログラムにも幅が拡がったように思います。



養老地区　新巻町会
佐久間町会長

星野　62世帯の町会ですが、月次開催には30名前後の皆さんが参加しています。

健康づくりの軽体操では、町会内の気功の会のメンバーが率先して取り組んでくれています。

脳トレは、書店に沢山関連書籍が販売されていますから、それを購入し、役立てています。

基本は、健康体操と脳トレ、これに加えて各種イベントを組み合わせる形で開催し、事前に町会内へのPRで参加促進に努めてきました。

週次開催に異なる方向性

渡邉　次年度（4月）以降、補助金の財源が介護保険からの支給となり、週次開催が求められることになりますが、皆さんどう対応されるのでしょうか。

織山　健康増進目的から財源を介護保険とする以上、開催頻度を週次とする方針が示されているものですが、地域事情や参加者事情があることも事実。

健康意識を高める目的からすれば、ただ単に毎週1回と画一的な取組みを求めるのではなく、月2回・3回のようなステップアップ方式でも許容されるような寛容さがあって欲しいと思います。

小野山町会としては、週次開催を目指しますが、筋トレや滑舌体操、茶話会等を織り交ぜ健康促進につなげていきます。

こうした取り組みにはリーダーやインストラクターも必要になります。

人材育成も地域の課題とすべきと思います。

佐久間　実施単位が町会という現状では、週次では問題が生じます。

参加者・運営側双方への負担増です。ただ、これまでの取組みを無駄にしたくないとの思いもあり、財源も含め、月次開催継続が可能かどうか、検討して行きたいと思っています。また、運営スタッフ等も参加者の協力を得るような工夫の中で、町会役員への負担軽減も図れるのではないかと思っています。



海上地区　宮原町会
星野町会長

星野　私のところでも、週次開催は無理と判断しています。その背景として、運営スタッフの負担も然ることながら、参加者ニーズに沿わない面もあるとのことです。つまりは毎週参加できる環境にはないと言うことだと思います。

したがって、現状では月次開催を継続できるよう町会としての検討を進める方向としています。

地域の期待に応え更なる活躍を

渡邉　多岐にわたる設問回答を頂きましたが、紙面制約上、部分掲載になることをご了承願います。

皆さんのご意見から、日頃のリーダーシップに感銘を受けました。

今後も引続き地域福祉に積極的に取組んで頂けることを心より祈念しております。

本日はありがとうございました。



回顧録

シリーズ ③

元日本航空　国際線パイロット

前田　佳正

昭和41年4月、徳島基地から鹿屋基地（鹿児島県）へ転勤となり、大型機P2Jによる海上パトロール等の任務についた。

昭和48年10月、12年6ヵ月間の自衛隊勤務を終え、当時の割愛制度（注）によって、日本航空へ入社した。

社内教育の後、渡米し、民間航空に必要な各種免許を取得した。

その後、約2年を経てDC8型機の操縦士となり、モスクワ経由のパリ・ロンドン・



ローマ路線を4年6ヵ月乗務した。

昭和56年4月からはB747型機（愛称ジャンボ機）への機種移行となり、以後定年まで同じ機種で乗務した。

B747型機は、DC8型機に比べ、機体の大きさや乗客数が桁外れに大きく、責任の重さも痛感させられた。

性能も各段に良くなり、ニューヨークへの直行も可能となった。

多くの命を預かる者として『安全・快適・正確』を常に念頭において毎回乗務し、悪天候で他

海自から日本航空(JAL)民間パイロットへの道

空港に数回行くことはあったが、大きな故障にもあわず、ふとした好奇心から始まったパイロット人生だったものの、定年までの27年間を無事「無事故」で過ごせたことを誇りに思っている。

そして、定年後は地域ボランティア活動に精を出し、忙しい日々を送っている。

（注）割愛制度とは、当時、民間航空のパイロット不足で、自衛隊からの引き抜きを防止するため、当時の防衛庁と日本航空との間で結んだ協定で、年間10名ほどが採用された。しかし、社内の養成が進み、また、航空大学の卒業生も増加したため、以後、割愛制度は無くなった。



フライトシュミレーターによる訓練の様子

【ご本人のご都合により、シリーズ③を以って完結とさせて頂きます。】



市原市危機管理課
石本　龍一　主幹

＜ 地区社協・安心安全部主催『地域防災研修会』・三和コミニティーセンターにて ＞

地区社協・安心安全部は、1月28日（火）、三和コミニティーセンターにて地域防災研修会を開催しました。

これは、昨年9月の相次ぐ台風被害、その後の三和地区内被災状況調査結果に基づき、地域としての防災意識を強化することを目的に、災害時の初動対応がどうあるべきか、市原市危機管理課の『災害リスクと備え』について受講したものです。

自分たちの住むまち 災害のリスクと備え

地域防災への認識新たに

安心・安全部　地域防災研修会

３３名が参加



参加された皆さんの顔も真剣そのもの

講師石本主幹は、元陸上自衛隊空挺団のご出身。多くの災害派遣経験から、ご自身の体験を交えながらの危機対応の在り方を熱弁。

また、参加者からは昨年の台風災害を踏まえ、予定時間を超えて多くの質疑が交わされ、三和地区に潜在する被災要因に対する認識を新たにする機会となりました。

三和地区社協傘下の各小域福祉ネットワークでは、年末福祉事業として、高齢者に対する訪問福祉活動に取組んでいます。

これは、共同募金を財源に市原市社会福祉協議会が進めている取組みですが、各ネットワークが計画を立案し、事業申請を行うことで市社協からの助成金の交付を受けて実施している取組みです。

昨年末、それぞれのネットワークの取組みの様子を以下にご紹介いたします。



拡がる 個々をつなぐ「ふれあい」の輪

養老ネットワーク　絆深める　宅配事業

12月20日、養老地区在住のひとり暮らしの高齢者33名の方々へ、お弁当の宅配を実施しました。

訪問は、町会長・隣人・民生委員と共に、それぞれのご自宅に伺い、孤独にならずに、いつでも気軽に何でも相談できる制度があることをお伝えしました。

また、同行を頂いた隣人の方へもささやかなプレゼントをお渡しし、引き続きご近所としての交流・親交をお願いいたしました。

海上ネットワーク　訪問員自身　活動の意義を

12月22日、海上地区では、各町会の訪問員の皆さんから見守り対象者の方々22名へ有明産・田庄の海苔、3帖1パックを見守り訪問時にお届けしました。

被訪問者からは「こんなにお気遣いを頂き有り難いことです」と感謝の言葉が寄せられ、共同募金を財源とした社会福祉の取組みに理解を深めて頂くと同時に、訪問員自身も福祉活動の担い手として活動の意義を感じる取組みとなりました。

光風台ネットワーク　おせち料理が　毎年楽しみの声

光風台小域福祉ネットワークでは、お正月をひとりで迎えられる独居のご高齢者23名に、おせち料理をお届けしました。

このおせち料理宅配事業は、平成24年から継続して取組んでいる事業で、市原市天羽田の特別養護老人ホーム



＜ 対象者宅へお届け訪問 ＞

「ゆうしゅう園」の料理人の皆さんの心の籠った調理品です。

配布は地区民生委員の皆さんが、訪問先のお元気な様子を確認しながらお配りしました。

「毎年楽しみにしていますよ」との声が取組みの励みになっています。



＜ 訪問準備もしっかりと ＞